

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771100520		
法人名	瑞祥会		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	香川県東かがわ市引田922番地18		
自己評価作成日	平成27年9月5日	評価結果市町受理日	平成26年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiryousoCd=3771100520-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JiryousoCd=3771100520-00&amp;PrefCd=37&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年10月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣にパークゴルフ場・テニスコート・公園があり、地域の人たちとの交流が行われている。また、のどかな山間のため、つくし採り、タケノコ堀り等、ご利用者は散歩がてら季節を楽しむことができる。職員とのコミュニケーションもよく、ご利用者同士お互いに声をかけ合い、助け合って過ごしており、ご家族や面会者からも好評。お寺参りやショッピング、弁当持参でお花見や外食など取り入れながら、地域の行事にも積極的に参加している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は、木造調平屋造りで、山間の自然に囲まれた地域にある。敷地内には、同法人の特別養護老人ホームがあり、公園やテニスコート、パークゴルフ場に隣接している。利用者がその人らしく暮らせるよう、日々支援している。地域行事への参加や事業所行事に地域の方の参加があり、地域との繋がりを大切にしている。また、幼稚園児の訪問、小中学校児童の体験学習、ボランティア訪問等の交流がある。法人単位での委員会活動や研修会に、事業所職員も参加し、サービスの質の確保や向上を図り、利用者や家族の信頼を得るよう努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者が、いつまでもその人らしく、安全で安心して生活できるよう、優しさにあふれたサービスを提供するよう心掛けている。	法人の経営理念のもと、事業所の経営方針や目標を定めている。理念は、事業所内に掲示し、日々の実践の中で職員同士で話し合い、理念を共有してサービスの向上に繋げるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園への散歩や地域へのショッピング・ひな祭り等、地域の行事に参加し交流している。絵手紙・大正琴等の地域のボランティアを受け入れている。	祭りや運動会、発表会等の地域行事への参加し、夏祭りや茶会、相談会等の同法人の行事へ地域の方を招待している。幼稚園児や小・中学生、ボランティア(絵手紙・生け花等)の訪問等があり、利用者が地域とのつながりを持てるよう取り組んでいる。	事業所は山間部で位置し、住民が点在する地域のため、事業所の積極的な取り組みがないと地域との交流の機会が限られることになる。地域の一員としての活動や役割を担い、利用者が地域とつながり暮らし続けられるよう、地域への働きかけを更に広げることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学校の福祉体験学習を通じて、地域の人たちとの交流を図っている。また、実習生の受け入れや見学者の相談に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者の状況や活動報告等を行い、委員からの意見をサービス向上に活かしている。	民生委員・地域代表者・家族・市担当職員が参加し、利用状況や事業所行事、事故や研修の状況等の報告し、意見交換を行っている。参加者からの意見を、サービス向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃の交流はあまりないが、運営推進会議を通じて意見交換を行い、協力関係を築いている。	市職員が運営推進会議には必ず出席し、事業所の実情やサービスの取り組みの理解と助言を得ている。また、書類提出や相談時にアドバイスや情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関その他の出入り口は、開放している。徘徊時は、制止するのではなく、職員が付き添い散歩するなど、行動を共にして見守りしている。また、マニュアルを作成し、活用している。	身体拘束防止マニュアルを作成している。日中、玄関は施錠していない。法人全体の委員会で身体拘束防止を検討している。利用者の安全に配慮し、自由に暮らせるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護を嫌がる傾向があるご利用者に関しては、医師やご家族の意見を基に、その都度職員間で話し合い、対応方法を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一法人の特別養護老人ホームでの研修会に参加している。また、制度を利用しているご利用者については、担当者との連絡を密にして、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時に意見や要望を聞いている。また、月に2回、市から介護相談員の派遣を受け、介護相談員がご利用者の相談に応じている。年1回家族会を開催し、ご家族とご利用者・職員間の交流を深め、意見を伺い、対応している。	家族の面会時や運営推進会議、家族会などの機会に、家族の意見や要望を聞くように努めている。家族の意見や要望は、職員に周知して、共有している。また、利用者は、市からの介護相談員(月2回)に相談し、介護相談員を通じて、事業所に意見を伝えることができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常に職員の意見をもとに話し合いを行い、ご利用者・職員の対応に反映させている。	管理者は、職員と話し合い、意見を出しやすいよう努めている。職員からの意見や提案は、職員会やカンファレンス等で話し合い、実践に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、生きがいのある職場づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受け、施設の研修に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流を図っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所の見学、知人との交流を通じて、ご本人の希望や不安等を、納得がいくまで聞き取り、安心していただける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所の見学、知人との交流を通じて、ご家族の希望や不安等を納得がいくまで聞き取り、安心していただける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の要望を聞いて介護計画を作成し、援助を行っている。また、3か月ごとに見直しを行い、その都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とのコミュニケーションを密にししながら、ご本人の残存能力に応じて、職員と共に作業に参加してもらい、対等の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にし、ご本人とのパイプ役となり、職員とご家族が共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の店への買い物・地域の行事への参加やご家族の付添での外出など、なじみの関係が途切れないよう支援に努めている。	家族や友人の面会、地域行事の参加、買い物等の支援を通して、馴染みの関係が途切れないようにしている。また、家族の協力を得て、一時帰宅や外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立していないか、常に気を配って見守りし、お互いが声をかけ合い、助け合いながら生活できるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族の希望や意向は、日々の会話等でコミュニケーションを図りながら把握している。聞き取りができない場合は、表情や行動から察するよう心掛けている。	利用者や家族の思いを聞きながら、日々の利用者との会話、利用者の表情や仕草を観察し、希望や意向の把握に努めている。利用者一人ひとりの支援を話し合い、共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には生活歴等聞き取りをしている。また、ご利用者やご家族との会話や、日常生活の中から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人ひとりの行動や表情などから、有する能力を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の要望を聞くとともに、月1回ケース会を行い、個々の状態に即した介護計画を作成している。	毎月、一人ひとりの利用者のモニタリングをし、職員の意見や気づきを具体的に話し合い、介護計画に反映している。家族の意見や要望を介護計画に反映し、介護計画への同意を家族から得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇状況や日々の状態を記録したケース記録をもとに、変化があればその都度職員やご家族で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、隣接する特別養護老人ホームの施設を借り、他のご利用者との交流を図るなどして対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・介護相談員・ご家族や知人・地域の方達との交流を図りながら、心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切にし、ご家族と受診結果を共有している。異常時はご家族に連絡し、了解を得て、かかりつけ医の指示を受け対応している。	利用者や家族が希望する医療機関での受診を、支援している。協力医院からは、医師の往診が週1回ある。医療機関や家族との連携を保ち、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が見られた時にはすぐに連絡し、看護師と相談しながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う事業所としての方針を、契約時に説明している。体調の変化に伴って、その都度ご本人・ご家族・関係者と話し合っ対応している。	入居時に利用者と家族に、重度化した場合の事業所の方針を説明し、話し合っている。看取りの経験を持ち、その都度状況に応じて、事業所のできる範囲を説明し、家族の意向を確認しながら、チームで支援に努めている。利用者の重度化に対応し、リフト浴槽を増設している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・風水害・土砂災害等のマニュアルを整備している。同一法人の特別養護老人ホームと合同で、年に2回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施し、ご利用者も参加している。	隣接する同法人施設と連携して、年2回の防災・避難訓練(日・夜想定)を実施している。地震や風水害のマニュアルを整備し、大規模震災に備えて、食糧などを備蓄している。家族や地域の方へ災害時に協力いただけるよう依頼している。また、隣接する同法人施設が、広域災害時の避難所として協力することについて、現在協議している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや言葉かけに関する研修を実施し、気になる言葉については、職員間で注意し合い、個々の人権を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりの思いを大切に受けとめ、利用者が主体的に暮らせるよう支援している。利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応が行われるよう研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が、希望や思いを、言葉や表情、行動で自己決定できるように、日常生活の中で働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の生活であるため、可能な限りご利用者個々の希望に添った生活を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を大切にし、美容院へ行ったり、出張してきた美容師に髪型などの希望を伝えている。また、服装は自分で選んで着てもらっている。メイクアップのボランティアにも来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力を活かし、準備や片づけをしてもらっている。また、菜園でとれた野菜・つくしやたけのこを採り、一緒に料理して季節を楽しんでいる。	法人の栄養士が献立を作り、法人が一括して調理している。利用者は、一人ひとりの状況に合わせて、準備や洗い物等の片付けを行っている。菜園で採れた野菜を、職員と利用者が調理して、メニューを加えることがある。おやつ作りは、利用者と職員が、買い物に出かけることから始めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士による献立をもとに調理しているため、バランスがとれておいしいと喜ばれている。水分は、食事とおやつで確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に応じた口腔ケアを行っている。また、夕食後は職員が声掛けや援助して、義歯は外してポリドントにつけ、清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁のあるご利用者はトイレ誘導を行っている。また、排便状況については、排便時は水を流さないよう声かけし、その都度確認している。	排泄チェック表や観察から、利用者の排泄パターンを把握している。利用者の居室内のトイレで、利用者のペースにあわせて、排泄支援を行っている。現在、日中のオムツ利用者は、1名となっている。一人ひとりの状況にあわせた声かけや誘導で、排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し、便秘がちのご利用者には特に気を付けて声掛けし、水分や乳製品を摂取してもらっている。また、便秘体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除き、毎日準備して入浴の声掛けを行い、希望に添った時間に入浴している。	利用者一人ひとりの意向に添えるように、入浴したい日や時間に入浴できるよう、毎日、朝からの準備をしている。入浴を楽しみにされている利用者が多く、週3回入浴している方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができるよう、日中はレクリエーション活動や散歩で体を動かし、個々の状況に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、ご利用者一人ひとりの薬の目的や用法の大切さを理解し、服薬を支援している。また、症状の変化に常に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存機能を活かした役割や気分転換や楽しみ等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者やご家族の希望で、ショッピングや墓参り、お寺参り等、外食や弁当を持参しての外出を支援している。また、時間があれば近くの公園に散歩に出かけている。	隣接の公園や近隣等への散歩や野菜や花づくりのための外出支援を日常的に行っている。買い物や季節の外出行事、ドライブ等の外出支援に取り組んでいる。また、個人的な外出希望には、一対一で支援し、できる限り希望に添えるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望により、買い物や支払等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、ご本人自らが電話する等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者自らが生けた花や行事の写真・作品等、季節感を取り入れ、換気や温度調節にも注意して、居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。	居間と食堂は、一面が大きな窓になっており、日当たりがよく明るく、四季の風景を眺めてゆったりと過ごすことができる。季節の花や絵、作品、写真等が飾られており、整理、整頓されている。ソファや畳の間の掘こたつで、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭での菜園作りや、ホールではゲーム・パズルやテレビ鑑賞・読書等、ご利用者が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具など使い慣れた生活用品を使用し、自分で作った作品や写真などを飾ったり、花を活けたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。	入り口にトイレと洗面設備があり、建物の奥に居室が配置され、落ち着ける環境となっている。居室には、ベッドと寝具、押し入れが備え付けられている。家族の理解と協力のもと、テレビや机等の使い慣れた家具や生活用品などが持ち込まれている。花や写真が置かれており、その人らしく落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状況を把握し、転倒防止のためクッションフロアにしたり手すりを設置している。居室がわからなくなる方には目印をつけるなど、工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者が、いつまでもその人らしく、安全で安心して生活できるよう、優しさにあふれたサービスを提供するよう心掛けている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園への散歩や地域へのショッピング・ひな祭り等、地域の行事に参加し交流している。絵手紙・大正琴等の地域のボランティアを受け入れている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学校の福祉体験学習を通じて、地域の人たちとの交流を図っている。また、実習生の受け入れや見学者の相談に対応している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者の状況や活動報告等を行い、委員からの意見をサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃の交流はあまりないが、運営推進会議を通じて意見交換を行い、協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関その他の出入り口は、開放している。徘徊時は、制止するのではなく、職員が付き添い散歩するなど、行動を共にして見守りしている。また、マニュアルを作成し、活用している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護を嫌がる傾向があるご利用者に関しては、医師やご家族の意見を基に、その都度職員間で話し合い、対応方法を検討している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一法人の特別養護老人ホームでの研修会に参加している。また、制度を利用しているご利用者については、担当者との連絡を密にして、支援している。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な説明を行い、理解・納得していただいている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時に意見や要望を聞いている。また、月に2回、市から介護相談員の派遣を受け、介護相談員がご利用者の相談に応じている。年1回家族会を開催し、ご家族とご利用者・職員間の交流を深め、意見を伺い、対応している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、常に職員の意見をもとに話し合いを行い、ご利用者・職員の対応に反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、生きがいのある職場づくりを行っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受け、施設の研修に活かしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設との交流を図っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所の見学、知人との交流を通じて、ご本人の希望や不安等を、納得がいくまで聞き取り、安心していただける様努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭への訪問、事業所の見学、知人との交流を通じて、ご家族の希望や不安等を納得がいくまで聞き取り、安心していただける様努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の要望を聞いて介護計画を作成し、援助を行っている。また、3か月ごとに見直しを行い、その都度対応している。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とのコミュニケーションを密にしながら、ご本人の残存能力に応じて、職員と共に作業に参加してもらい、対等の関係を築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にし、ご本人とのパイプ役となり、職員とご家族が共にご本人を支えていく関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の店への買い物・地域の行事への参加やご家族の付添での外出など、なじみの関係が途切れないよう支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が孤立していないか、常に気を配って見守りし、お互いが声をかけ合い、助け合いながら生活できるよう支援に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族の希望や意向は、日々の会話等でコミュニケーションを図りながら把握している。聞き取りができない場合は、表情や行動から察するよう心掛けている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時には生活歴等聞き取りをしている。また、ご利用者やご家族との会話や、日常生活の中から把握するように努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人ひとりの行動や表情などから、有する能力を把握するよう努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の要望を聞くとともに、月1回ケース会を行い、個々の状態に即した介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の処遇状況や日々の状態を記録したケース記録をもとに、変化があればその都度職員やご家族で話し合っている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、隣接する特別養護老人ホームの施設を借り、他のご利用者との交流を図るなどして対応している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・介護相談員・ご家族や知人・地域の方達との交流を図りながら、心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切にし、ご家族と受診結果を共有している。異常時はご家族に連絡し、了解を得て、かかりつけ医の指示を受け対応している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が見られた時にはすぐに連絡し、看護師と相談しながら対応している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携している。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う事業所としての方針を、契約時に説明している。体調の変化に伴って、その都度ご本人・ご家族・関係者と話し合っ対応している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・風水害・土砂災害等のマニュアルを整備している。同一法人の特別養護老人ホームと合同で、年に2回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施し、ご利用者も参加している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや言葉かけに関する研修を実施し、気になる言葉については、職員間で注意し合い、個々の人権を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が、希望や思いを、言葉や表情、行動で自己決定できるよう、日常生活の中で働きかけを行っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の生活であるため、可能な限りご利用者個々の希望に添った生活を大切にしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定を大切にし、美容院へ行ったり、出張してきた美容師に髪型などの希望を伝えている。また、服装は自分で選んで着てもらっている。メイクアップのボランティアにも来てもらっている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力を活かし、準備や片づけをしてもらっている。また、菜園でとれた野菜・つくしやたけのこを採り、一緒に料理して季節を楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士による献立をもとに調理しているため、バランスがとれておいしいと喜ばれている。水分は、食事とおやつで確保できるように支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に応じた口腔ケアを行っている。また、夕食後は職員が声掛けや援助して、義歯は外してポリドントにつけ、清潔にしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁のあるご利用者はトイレ誘導を行っている。また、排便状況については、排便時は水を流さないよう声かけし、その都度確認している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し、便秘がちのご利用者には特に気を付けて声掛けし、水分や乳製品を摂取してもらっている。また、便秘体操を行っている。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除き、毎日準備して入浴の声掛けを行い、希望に添った時間に入浴している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠ができるよう、日中はレクリエーション活動や散歩で体を動かし、個々の状況に合わせて対応している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、ご利用者一人ひとりの薬の目的や用法の大切さを理解し、服薬を支援している。また、症状の変化に常に注意している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や残存機能を活かした役割や気分転換や楽しみ等の支援を行っている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者やご家族の希望で、ショッピングや墓参り、お寺参り等、外食や弁当を持参しての外出を支援している。また、時間があれば近くの公園に散歩に出かけている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望により、買い物や支払等の支援をしている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望により、ご本人自らが電話する等の支援を行っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者自らが生けた花や行事の写真・作品等、季節感を取り入れ、換気や温度調節にも注意して、居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭での菜園作りや、ホールではゲーム・パズルやテレビ鑑賞・読書等、ご利用者が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用していた家具など使い慣れた生活用品を使用し、自分で作った作品や写真などを飾ったり、花を活けたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状況を把握し、転倒防止のためクッションフロアにしたり手すりを設置している。居室がわからなくなる方には目印をつけるなど、工夫している。